

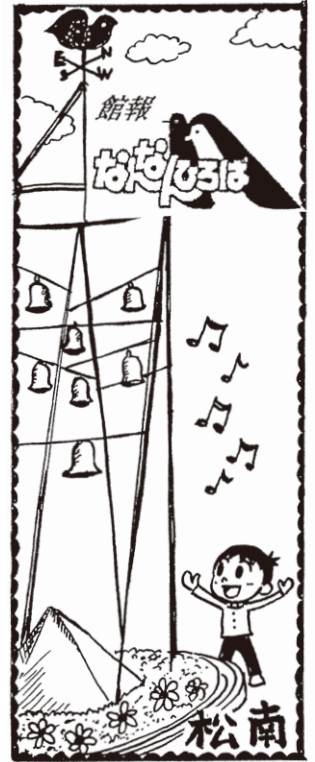


町をガイドさんに導かれ訪ねた。軒を連ねる寺院は、浄土系・禅宗系など宗派は異なるが、中世以来の古刹ばかり。信玄・謙信はじめ白隠禪師などとのゆかりも深く、小京都の異名も肯げた。軒を連ねる仏壇の町のにぎわいも含め、住民の深い信心が寺跡をつな

町内公民館長会・館報編集委員会視察研修

慈悲の町「飯山」

9月24日、視察研修で、飯山市を訪ねた。シヨッピンゲ街や新幹線駅など新しい町を過ぎ、懐かしさの漂う旧市街地に入った。



いできたのだろう。

雁木造をはじめ、町や建物の随所が雪国仕様。近年こそ温暖化したのが、屈指の豪雪地帯。「二里一尺の雪に埋もれると、心底、春が待ち遠しい。」と述懐された知人の声が耳に残る。訪ねた寺院の檀家総代を長く務めた、忍従を知り、信心厚く人を思いやる方である。

人形作家の高橋まゆみさんは、「忘れてはならない何か」とあると、この地に移住したという。純朴な作品の底流にある情の通い合いだろうか。家々の庭先は

野菜の他、余地にも花が咲き、心を癒す情の濃さもひとしおだった。随所に慈悲が流れる町である。

(白澤幸男)



飛躍する信明中学校

吹奏楽部

四月、吹奏楽部の子ども達は、「県大会で金賞をとって上の大会へ行く」ことを、目標として掲げました。これは昨年度、中日コンクールで本大会出場を逃し、今年は何としてもよい演奏をして上の大会に進みたいという願いを込めたものです。

しかし、本年度は決して部員は多くなく、質の高い演奏をつくっていくのに有利な状況ではありませんでした。

少年数バンドでは、一人の出す音が直接演奏の良し悪しに影響します。そのため、一人ひとりが音色を磨き、共にしなやかな音楽をつくっていくことが求められます。子ども達は、そうした音色、音楽をつくるために、毎日地道な基礎練習に取り組み、音程感や音色感を徐々につかんできました。

県大会では、会心の演奏とともに、長野県代表に選ばれました。また、地域からもお声をかけていただき、お祭り等で演奏をさせていただきました。かけがえのない経験に恵まれた半年間でした。



第33回飛翔祭

「信明開花」のテーマのもと第33回飛翔祭が行われました。

開閉祭式では、生徒会役員が劇で全校を盛り上げ、教室展示や各学年のステージ発表、姫路市松本市交換キャンプ・広島平和記念式典の発表では、これまでの学習の成果が報告されました。

部活動の発表では、3年生にとって最後のステージ、涙を浮かべながらも堂々とした姿で、集大成を飾ってくれました。また、信明オリンピックや合唱コンクールでは、真剣な眼差しと歓喜の表情で学級の絆を深める姿が数多く見られました。さらに今年は、ネパール支援のために花の種を販売し、支援

のあり方を考えることができました。

3年生にとっては、先輩達のような素晴らしい飛翔祭を作り上げられるのだろうかと不安を持ちながらのスタートでした。しかし、仲間とともに試行錯誤しながら飛翔祭を成功させた経験は、かけがえのない学びとなりました。

ご協力いただいた皆様にご場を借りて感謝申し上げます。

バレエ 平田優奈(3年)

私の夢は、世界で活躍するバレエダンサーになることです。

そのために、基礎練習を大切に毎日の練習を頑張っています。

今年の全国大会では2位になることができました。初めてのことがあったのでとてもうれしかったですし、自信につながりました。

これからは、さらにプロになれるように、これまで支えてくれた家族や指導して下さった先生への感謝の気持ちをもって頑張っていきます。また、今は受験生ということ、時間の使い方を更に工夫して、勉強とバレエの両立ができるように頑張っていきたいと思えます。

平成29年度なんなんひろば文化祭と今後

毎年9月最終土日に開催している文化祭ですが、今年は16日と17日の両日に開催されました。

台風16号の影響を受け、あいにくの天気となりました。特に今回来場者に喜んで頂くことと企画した「乗れるミニSL」は中止となり楽しみにお答え出来ず残念でした。集客の起爆剤としての特別企画が中止となり、風雨の影響もあり、集客に暗雲が漂いました。

しかし、なんなんひろばという呼名は、松南地区公民館、南部図書館、青少年ホームの社会教育複合施設の愛称です。悪天候にも負けず三施設がご来場の皆様に精一杯の対応をさせて頂きました。強みとはまさしく三位一体のまとまりです。

文化祭実行委員会責任者としてご尽力頂いた方々に心から御礼と労いを申し上げます。

さて、ここで利用者の会に關して簡単にご説明いたします。利用者の会は松南地区公民館を利用している登録利用



沖繩三線ゆいまーの演奏

団体、サークルの中での地域づくり、文化発信活動にご賛同頂いている団体、サークルが集まり設立している自主組織です。活動の中でもなんなんひろば文化祭は最も大きな行事です。

公民館文化祭は、全国各地で開催されています。開催目的は、地区の文化発信であります。利用者の会も地域への文化発信を念頭に様々な企画立案を考えて行動しています。

なんなんひろば文化祭をより一層地域に浸透させるためにはどうすればよいか、魅力ある文化祭にするにはどうすればよいか等々、課題は沢山ありますが、利用者の会としてだけでなく、南部図書館、

青少年ホームの皆様とも連携を取ることも必要と考えています。

最後に、松南地区の皆様との繋がりを深めることが一番重要ですので、愛される文化祭を目指して活動して行きま

（松南地区公民館利用者の会 会長 原 雅敏）

松南版第68号で、「社協と福祉のひろば祭りとなんなんひろば文化祭を、これから何時・どんな内容で・どの様にしていって良いか？」について考える時期に来ているのでは？と問題提起をさせて頂いておりました。

文化祭を終え、感想・課題等を集約している中で、「総合社会福祉センターの改修が終わるまでは…地区以外からも利用する方が多く、沢山の方々が今迄の時期の実施を望む方々が多い…」等の意見から、しばらくの間時期や内容を大きく変えず、継続して検討していく方が良さそうです。ご承知おき頂きたいと思えます。

（公民館長 浦澤 和利）

市制施行百十周年記念 松本市市民 体育大会より

10月8日、前日まで降り続いた雨も上がり、秋晴れの下の第60回の節目を迎えた松本市市民体育大会が開催されました。

松南地区からも対抗競技5種目にメンバーを募り参加しました。

大会の結果は、総合(24位)、軟式野球(ブロック3位タイ)、卓球(決勝トーナメント4位タイ)、ソフトバレー4位以上(決勝トーナメント4位タイ)・同39歳以下(決勝トーナメント5位タイ)、マレットゴルフ男子20位・同女子10位、でした。



早朝から総合体育館に足を運ばれた方、選手の皆様方、ありがとうございました。

来年度は、総合順位をひとつでも上に伸ばせるよう更なる皆様のご協力を願っております。

（体協理事長 藤森 康司）

コラム松南

ドドドドドと黒い風が我らの横を通り過ぎる。パタンと音がし、十分も経過し、再度パタンと音がしたかと思うと安心顔。『あれから四十年』とある芸人の常套句よろしき昔の乙女二人が過ぎていく。

その先を見れば対面ははるかに長い列をなしている。これを見るにつけ、ある人の言葉を思い出した。『女性が(いばり)にかかる時間は三分弱、男性は一分弱である』そうだ。これでは長い列も肯ける。

この世の中で女性が半分を超えているのを見れば、利便性に軸足を移した方法は、優しさに使い勝手が加味されて、安心が其処に見られると思う。女性も声を大きくしよう。自分のことであるのだから。『衣食足りて礼節を知り、出づるを収めて文化を知る。』開幕を告げるベルが鳴っている。私も早く用を済ませ、緞帳の揚がるを待ちたい。

（田中 紀彦）

